

人も自然も共に生きる

ESD×生物多様性しんぶん

2010 年春号

ESD-Jでは、生物多様性保全と生業を両立させる国内の取り組みを、人づくりの視点から文書化し、事例をもとにハンドブックや生物多様性条約第10回締結国会議への提言を作成する「ESD×生物多様性」プロジェクトを実施中。この「しんぶん」で、プロジェクト成果や関連情報を紹介しています(季刊発行)。

持続可能な地域づくり・人づくりの視点から 生物多様性保全のありかたを議論

2月13・14日公開・非公開フォーラムから

生 物多様性を大切にしたい地域づくり・社会づくりにつながる人づくり(=ESD)とはどういうものか?

「ESD×生物多様性プロジェクト」をすすめる全国の担当者が一堂に会する公開・非公開会合を、2月13・14日に開催しました。

雪に見舞われた初日の公開フォーラムには、47名にご参加いただきました。プロジェクトの担当理事の森良(NPO法人エコ・コミュニケーション代表)による「ESD×生物多様性」事業の目的の共有、生物多様性市民ネットによる「生物多様性条約COP10(今年10月名古屋で開催)に向けた市民の動き」についての情報提供で公開フォーラムが始まりました。

メインは全国9地域での「ESD×生物多様性」の実践事例やワークショップの紹介。生物多様性を大切にしたい地域づくり・社会づくりにつながる人づくり(=ESD)とはどういうものか?そのカギとなる考え方や視点などについて、参加者とともに議論しました。

「地域の人びとの生業を成り立たせる仕組みづくりが第一で、有形・無形の生態系サービスの恵みへの理解は次のステップ」、「上流・下流を合わせた生命流域で、生物多様性保全に根差した地域づくりを考える」、「持続可能な地域づくりに参画することが地域の人びとのアイデンティ

ティの再構築や権利の回復につながる」、「生物多様性空間=公共財産」ということが指摘され、地域づくりと関連させた場合の生物多様性の意味や、コーディネーターの位置づけや、地域という枠組みの考え方などが整理されました。

二日目の非公開フォーラムでは、10地域の窓口担当者、本事業に協力いただいている6地域の環境パートナーシップオフィスの担当者が集まり、前日の公開フォーラムの成果を踏まえ、じっくり議論を進めました。

議論の最大のポイントは、「開発と生物多様性の対立を避け、地域の意識を変え、地域の持続可能性に向けて合意をつくりだしていく」ために、何が重要かといったことでした。本事業の事例で取り上げている藤前(愛知)や重富(鹿児島)での干潟干拓や、赤谷(群馬)のスキー場開発ではない選択肢を地域の人びとが選んだ課程には、住民が専門家とともに地域調査に参加し「地域の宝」を見つけたことや、あらゆる立場の住民が参画し、開発によるメリット・デメリットを検討する場があったことなどがあげられました。そして、その後で、地域のコーディネーターが重要な役割を果たしたことを確認しました。

今後は、公開・非公開会合の成果を踏まえつつ、事例及びワークショップの成果を整理・分析(6月)し、その成果をもとに、

アジアで持続可能な地域づくりやESDをすすめるNGOとともに、途上国の持続可能な地域づくりに貢献できるような視点を抽出し、生物多様性条約COP10に向けた提言を取りまとめます。(8-9月ごろ)また、国内における生物多様性保全に根差した持続可能な地域づくりの担い手を育成するためのハンドブックの作成に着手(10月~)する予定です。

CBD COP10カレンダー

COP10をめぐる世界、国、市民の動きをご紹介します。

2009年		開催地など
11月27日	第三次生物多様性国家戦略策定	日本
2010年		
1月6日	「ポスト2010年目標日本提案」をCBDCOP事務局に提出	日本
2月中旬ごろ	CBDCOP事務局、条約戦略計画事務局案を各国に提示	
3月1日~5月31日	グリーンウェイブ2010の実施	日本
3月7日	環境省生物多様性地域対話in仙台	仙台
3月20日~21日	生物多様性EXPO2010 in 大阪	大阪
3月21日~22日	COP10プレ・コンファレンス「新しい生物多様性目標を考える」	名古屋
3月22日~24日	ABSに関する特別作業部会第9回会合	コロンビア
3月28日	シンポジウム「生物多様性保全における拠点機関の役割-COP10を契機として」	名古屋
3月28日	学習会「生物多様性って何? ~ COP10に向けて ジュゴンとともに~」	大阪
5月10日~21日	SBSTTA(科学技術助言補助機関)第14回会合	ナイロビ
5月13日~14日	オープンフォーラム「流域圏と生物多様性」	名古屋
5月24日~28日	WGRI(条約実施レビューに関する作業部会)第3回会合	ナイロビ
8月23日~26日	生物多様性国際ユース会議 in 愛知 2010	名古屋

情報提供: 環境省生物多様性地球戦略企画室、IUCN 日本委員会、CBD市民ネット



会場から地域の取り組みについて質問・意見が多く出されました。



公開フォーラム最後に、参加者全員が「ESD×生物多様性」へのそれぞれの考えを出し合いました。

「ESD×生物多様性」地域ワークショップを続々開催!.....

生物多様性を大切にした地域づくりと人づくりに取り組み地域を訪れ、フィールド見学も織り込みつつ、活動における大切な視点やノウハウについて学ぶ地域ワークショップを開催します。ぜひご参加ください。

■九州・鹿児島県重富干潟

日時:5月15日(土)13:00~16日(日)13:00

場所:15日(土)=鹿児島県始良郡始良町重富干潟

16日(日)=鹿児島県鹿児島市

鹿 児島湾唯一の干潟

「重富干潟」の保全活動を、住民と共に

行っている「重富干潟小さな博物館」の活動をご紹介します。15日はフィールドワークを中心とした、干潟の重要性やそこにすむ生き物の多様性を

伝える活動の体験。16日は、鹿児島で生物多様性と持続可能な社会作りを実際に行なっている人々を交え、ディスカッションを行ないます。先進的な成功事例を多数持つ鹿児島でのワークショップにぜひご参加下さい。(写真:重富干潟での「干潟の生き物観察会」の様子)

お問合せ:NPO法人くすの木自然館
0995-67-6042 (浜本表)



■中国・岡山市竹枝地区

日時:4月25日(日)9:00-15:30

場所:岡山市立竹枝小学校

(岡山市北区建部町吉田1504)

岡 山市建部町竹枝地区では、竹枝小学校を拠点に「水辺の

楽校」や「生き物の里づくり」など、地域の生物多様性の豊かさを地域づくりに活かす取り組みが行われています。地域ワークショップでは、地域活動「自然の宝物さがし」を体験したのち、「(鳥や魚といった)テーマと地域が幸せに出会う」と題した話し合いをします。学校と地域が同じ目標を持って、協同から協働へどうシフトしていけば良いかななどを考えてみたいと思います。(写真:川干しして環境を調べる「かいぼり調査」の様子)

お問合せ:岡山ユネスコ協会
E-mail:ikd@mxt.mesh.ne.jp (池田満之)



せいぶつたようせいQ&A.....

先住民族と呼ばれる人びとは、名古屋の生物多様性COP10に何を期待していますか?

回答者▶

市民外交センター代表

恵泉女学園大学教授

上村英明さん



CBD COP9(ドイツ、ボン、2008年)の閣僚級会合で、先住民族グループ代表として発言するジョージ・カリーン(TEBTEBBA財団)

写真提供:(財)日本自然保護協会

先 住民族とは、近代国家が開発主義とともに拡大する中で、土地や資源、領土を奪われ、「未開」や「野蛮」としてその文化や価値を否定され続けた人々です。米国やオーストラリア、日本の北海道などでは、18世紀以来大規模な「開拓事業」が行われる中、また19世紀以降アジア・アフリカ・ラテンアメリカでも植民地が独立するプロセスで、多くの先住民族が生まれました。しかし、先住民族が居住する世界のすみずみで開発事業が始められたのは、先進諸国が世界銀行や国際通貨基金などの国際金融機関を使って「国連開発の10年」に乗り出した1960年代でした。

先住民族の土地では、地下資源を求める鉱山開発、プランテーション農業と商品作物の導入、熱帯林の伐採、ダム・高速道路などのインフラ整備、水産資源の乱獲、移民の送り込みや強制移住、遺伝子資源の搾取などが一方的に行われてきました。先住民族は、こうした大規模開発行為を止めるための実効力のある国際基準を探してきましたが、その中のひとつが、1992年に採択された生物多様性条約でした。条約の中では、第8条j項にある「先住民族社会の知

識、工夫及び慣行」の尊重や維持により強い実効性を持たせること、ABS*に関する国際ルールに先住民族の権利と衡平な参加を明確にすること、先住民族の主張を盛り込んだ国家戦略をつくること、さらに、原発やバイオ燃料などの誤った気候変動対策を停止させることが、彼らの関心事です。

もちろん、先住民族の中にも、複数の考え方があります。先住民族を正当な権利主体(rights-holder)と認め、近代的な開発主義を持続可能な開発に転換し、その利益を衡平に配分してほしいという立場がある一方、生き物を資源化(商品化)するという意味で近代的な開発主義の基本的な考え方そのものが先住民族の価値と相いれないという立場の人もあります。しかし、いずれにしても、先住民族を持続可能な社会建設の重要な主体とみなすことを要求しています。

名古屋の会議では、ネットワーク組織である「生物多様性に関する国際先住民族フォーラム(IIFB)」の下、アジア、アフリカを含めて世界各地から100名を超す先住民族が参加し、政府間会議に先住民族の主張を訴える予定になっています。

*ABS(=Access and Benefit Sharing)遺伝資源へのアクセスとその利用から生じる利益の公正・衡平な配分のこと



発行:特定非営利活動法人「持続可能な開発のための教育の10年」推進会議(ESD-J)

編集:ESD-J地域プロジェクトチーム <http://www.esd-j.org> e-mail: admin@esd-j.org

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前5-53-67 コスモス青山B2F TEL: 03-3797-7227 FAX: 03-6277-7554



この印刷物は、平成21年度地球環境基金の助成を受けて制作されています。

レイアウト:宮部浩司